

（旧料亭「蓬嶋楼」 玄関口の部屋・茶の間）

旧料亭蓬嶋楼：入口と受付のエリア

蓬嶋楼は、かつては三丁町エリアで最大級の高級レストランであり娯楽施設（料亭）でした。この建物は 19 世紀後半に建設され、小浜が賑やかな港だった頃に複数の茶屋やレストラン、旅館があった、近隣の歴史的な雰囲気を保存しています。熟練した職人技、高品質の素材、特徴的な建築、洗練されたインテリアのディテールは、蓬嶋楼の繁栄を反映しており、貴賓をもてなした料亭としてのその過去を思い出させるものとして役立ちます。

玄関

玄関は、石灯籠を配した小さな庭と、当時としては珍しいタイル張りの床、丸い格子窓が特徴です。玄関はもともと土の床でしたが、後に手作業で丁寧に敷かれた小さな陶磁器製のタイルに置き換えられました。装飾的な窓のように目を引くディテールたちは、これから訪れる顧客にその料亭の建物内で彼らを待っている優雅なインテリアを想像させるものでした。

応接間

建物に入ると、お客は自身が広い応接間にいることに気づきました。女将は左奥の部屋に座って、訪問者を歓迎し、彼らの要望に応じるための手配をしました。けやきでできた火鉢の台で常連客と会話を交わし、情報を収集し、人間関係に加えて商売的な関係を強化しました。

旧料亭の歴史的な品と日用品

その他にも、その応接間にはさまざまなこだわりが見られます。高い棚に収納された提灯用の箱には、店主であった村田家の十字を輪で囲んだ紋が入っています。建物のこの部分には 2 つの神道の祭壇があります。入り口に面した床の間には、商業と農業の神である稲荷をまつる小さな神社があり、一番左の部屋にはその家族の家庭のための祭壇（かみだな神棚）があります。その棚の 1 つには、商業的成功と幸運をもたらすと考えられている、ふくすけ福助と呼ばれる伝統的な人形がいくつか飾られています。比較的最近に追加されたものには、顧客を引き付けると信じられている手招きする猫の置物（まねきねこ招き猫）があります。